

21世紀金融行動原則 10周年記念イベント

サステナブル金融の今昔物語



2021年10月6日

国連環境計画金融イニシアティブ特別顧問

末吉竹二郎

---

# 「サステナブル金融」の始まり

# サステナビリティの生みの親

コフィ・アナン国連事務総長(97~06)

1999年1月:ダボス会議

CEOへの呼びかけ

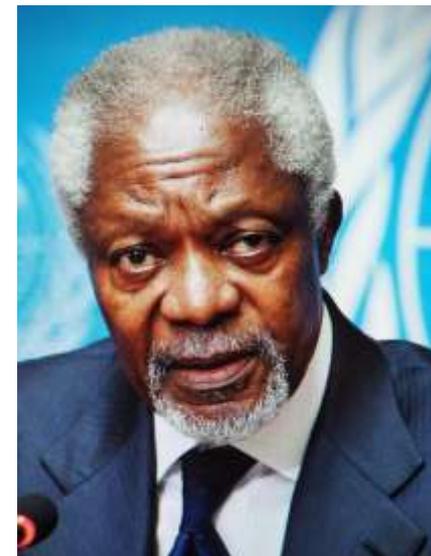
「グローバル化の恩恵を最も受けている  
皆さんこそ、その陰で起きている問題の解決に  
取り組んで欲しい」

その後、生まれたのが、

2000年:グローバル・コンパクト

2000年:ミレニアム開発目標(MDGs)

2015年:持続可能な開発目標(SDGs)



# ESGの登場

---

**2004年6月：**

「ESGは、株価形成に重要だ」\*

**Social**／社会

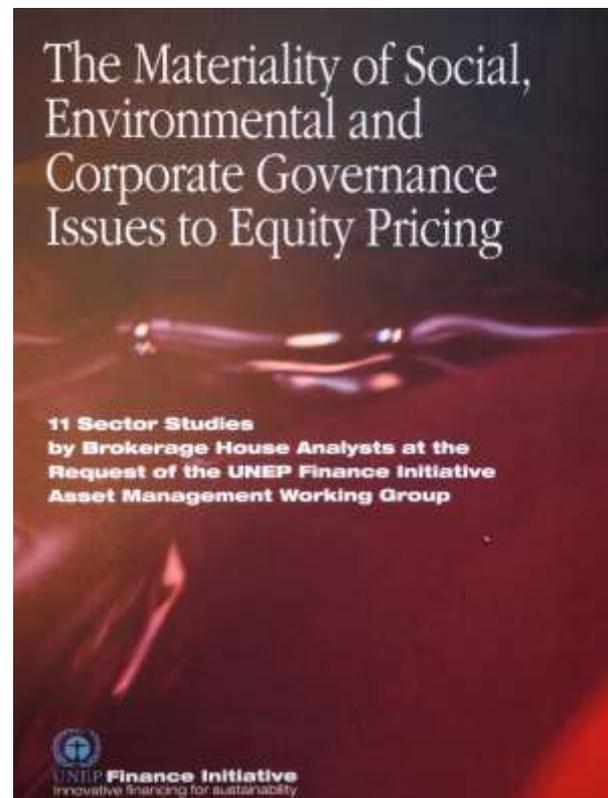
**Environmental**／環境

Corporate **Governance**／ガバナンス

\*当時は、ESGは

**Non-financial factors**

と呼ばれていた。



# 投資哲学のコペルニクスの転換

**2006年4月27日：PRI(責任投資原則)の発足**  
**P**rininciples for **R**esponsible **I**nvestment

**第1原則:**

投資の分析／判断の過程に  
**ESG**を組み込む



～お金のことを、お金だけで考える時代が終わった～

# 歴史を変えた「受託者責任」の見直し

ESGを考慮しないことは受託者責任の違反

Failing to consider ESG is a failure of fiduciary duty

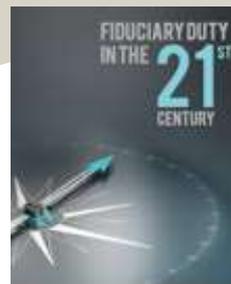
ESGを考慮することは受託者責任に違反しない

Clearly permissible and is arguably required

October 2005

かつてはESGは違反だった！  
Illegal!

2021年10月6日



受託者責任に求められるインパクト

Sustainability Impact as fiduciary duty



# UNEP金融イニシアティブ:

## サステナブルファイナンスの三本柱



---

# 21世紀原則の誕生

# そもそもの始まり

---

**2009年9月～2010年6月：**

**中央環境審議会「環境と金融に関する専門委員会」**

4つの政策提案：

環境金融の取り組みの枠を広げていく仕組み

～ **日本版環境金融行動原則の策定** ～

① グローバルな行動原則に参加していない

金融機関への環境金融取組の裾野の拡大

② 投資に限定されない、多業種にまたがる

自発的なプラットフォームを作る

# 起草委員会の設置

---

**2010年9月～2011年10月**

25の金融機関の参加

7回の起草委員会、17回の業務別WG

**委員長として考えたこと:**

**「一語一句自分たちの手で作る」**

- 手を挙げた金融機関の参加
- 事前のペーパーは用意しない
- 参加者が自ら考える

# 「3・11」が生んだ「原則」

**2011年3月11日～6月：議論を中断**

～再開後の議論が様変わりした！～

はじめに(抜粋)：

- ・我々は、持続可能性とは何かを再考させられた
- ・気候変動や生物多様性の損失、貧困や感染症等地球規模の課題に果敢に取り組む
- ・チャレンジは次なる飛躍へのターニングポイント
- ・**持続可能な社会の形成こそ  
21世紀の金融の役割**

～今でも時代を先取りした斬新さを失わず、  
今こそしっかり取り組むべき原則～



---

# 今こそ、サステナブル金融を！

# 地球規模に拡大した「危機」

「地球は壊れている」  
The State of Planet is  
**broken**”

人間は自然にまるで自殺的な  
戦いを挑んでいる。

「21Cの最重要重任務は自然  
との平和共存の回復だ」

グテーレス国連事務総長



# 「破壊」と「創造」の同時進行

---

## Green Transformation (GX) :

気候や生物多様性への危機感が非常に嵩じる中、世界は、産業構造や経済モデルの変革を軸に、**サステナブルな社会の実現を目指しての社会全体を巻き込む改革**に取り組み始めた。



その社会改革の中核をなすのが、

- ・20世紀型の経済モデルの**破壊**
- ・21世紀型の経済モデルの**創造**

の同時進行である。

# 金融の「破壊」と「創造」

---

## BlackRock: Larry Fink・CEO

世界最大の9兆ドルの運用機関, TCFDの創業メンバー

写真 <https://www.blackrock.com/corporate/investor-relations/larry-fink-ceo-letter>



「資本の流れが大きく変わり  
金融の根本的な再構築が始まった」

「資金配分の転換の波が津波のように押し寄せている。  
10年以内に**全てをサステナビリティで判断**する  
時が来る」

～サスエナブルか、否か。それが将来を決める～

---

# 社会制度化されるサステナビリティ

# EU:

## サステナブル経済確立への周到な準備

**2016年: サステナブルファイナンス(SF)の検討開始**

- ・欧州経済をサステナブルにする

2018年: SFのAction Plan発表

2019年: 「欧州グリーンデール」発表

- ・2050年カーボンニュートラル宣言

2020年: 「タクソミー規則」法制化、2022年から施行予定

- ・SFを拡大するための定義づけ

2021年: **サステナブルファイナンス開示規則(SFDR)**

- ・金融セクターのグリーンウォッシュ防止策

コーポレート・サステナビリティ報告指令(**CSRD**)案

- ・投資家向けの情報開示の信頼性確保



# 義務化を始めた金融当局

## 英国・金融行為監督機構

(Financial Conduct Authority)

- ・2012年の金融危機を機に創設。

## TCFDの全面義務化へ

「気候関連財務情報開示タスクフォース  
(TCFD)に準拠した

気候変動リスクの開示を求める

- ・**今年1月**：ロンドン証券取引所上場企業(プレミアム区分)
- ・**2025年**：英国経済全体で完全義務化

今年3月：スナク財務相→ベイリー総裁宛  
英中銀の**使命**に、「**脱炭素**」を追加



# サステナビリティの基準が生れる

---

国際財務報告基準財団 (**IFRS**財団、ロンドン)

「国際サステナビリティ基準審議会 (**ISSB**)」

COP26を機にを設置し、

- ・高品質で理解可能な、
- ・強制力のある
- ・国際的に認められる

「サステナビリティ基準」の開発を目指す(22年6月)

(注)気候を優先

---

# 日本の金融への期待

# 「危機と蘇生は背中合わせ」

---

- 日本はこれまで、真の改革をする機会を言葉遊びだけでみすみす逃してきた。それは潔く過去を捨てきれなかったからだ。
- 力の衰えた日本にはもうそんな時間はない。今こそ、時代遅れとなった過去ときっぱり決別する時だ。その反省を梃子に、未来への一步を踏み出そう！

# 改めて、金融の役割を考える

---

## “A social license to operate”

- ・金融が扱うお金は、金融のポケットマネーではない
- ・金融が扱うお金は、社会から預かったお金である
- ・とすれば、社会のお金は、社会のために流す
- ・社会が栄えてこそ、金融が栄えるのが道理である

# Finance the Future

## 未来を切り開く金融に

---

**“Financed Emissions”をゼロに**

パリ協定の実現



**2050年ネットゼロの実現**



**事業ポートフォリオのネットゼロの実現**



**投融資ポートフォリオのネットゼロの実現**

# ご清聴ありがとうございました

---

## “Alice”

電気貨物飛行機(1.2トン／815km) by Eviation(米国)

